

作成番号:0161

=====

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

=====

号数:2024-161

内容:健康に有害な低体重・痩せと肥満はこの 30 年間でどう変化したか？

出典:Worldwide trends in underweight and obesity from 1990 to 2022: a pooled analysis of 3663 population-representative studies with 222 million children, adolescents, and adults.

Lancet (London, England). 2024 Feb 29; pii: S0140-6736(23)02750-2.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38432237/>

生涯を通じて有害な健康アウトカムである低体重と肥満を世界 200 の国と地域で 1990～2022 年の変化について、国際共同疫学研究グループの NCD Risk Factor Collaboration (NCD-RisC) が解析し、Lancet 誌オンライン版 2024 年 2 月 29 日号に報告した。

身長と体重の測定値がある地域住民を対象とした研究 3,663 件、合計 2 億 2,200 万例のデータを統合し、メタ回帰分析を行った。主要アウトカムは、低体重(20歳以上の成人)または痩せ(5～19歳の学童/若年者)と肥満それぞれの有病率、ならびに複合の有病率とした。1990～2022年に、成人における低体重+肥満の複合有病率が減少した国は、女性では 11 カ国(6%)、男性では 17 カ国(9%)であった。一方、複合有病率が増加(事後確率が少なくとも 0.80)した国は、女性では 162 カ国(81%)、男性では 140 カ国(70%)であった。1990～2022年に、学童/若年者における痩せ+肥満の複合有病率は、女子では 5 カ国(3%)、男子では 15 カ国(8%)で減少し、それぞれ 140 カ国(70%)および 137 カ国(69%)で増加した。2022年において、学童/若年者の痩せ+肥満の複合有病率が最も高かった国は、女子がポリネシア、ミクロネシア、カリブ海の島国、男子がポリネシア、ミクロネシア、カリブ海の島国、チリおよびカタールであった。成人ならびに学童/若年者の両方において、ほぼすべての国で、二重負荷(低体重または痩せと肥満の複合有病率)の増加は肥満の増加によって、減少は低体重または痩せの減少によって引き起こされていた。

肥満の増加を抑制し減少に転じさせる一方で、低体重の負荷への対処には、栄養価の高い食品へのアクセスを強化することによる健康的な食事への移行が必要である。

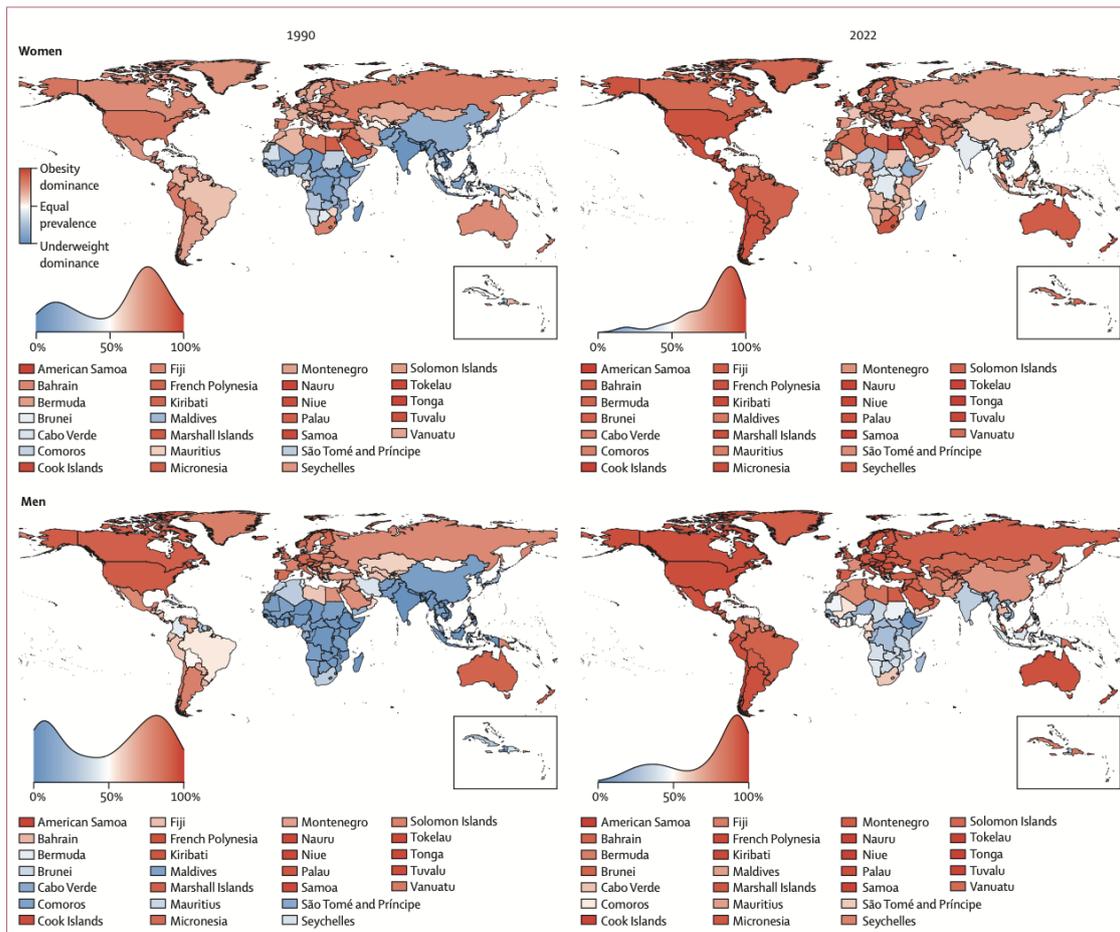


Figure 2: Proportion of the double burden from obesity, for adults (age ≥20 years)
 Age-standardised proportion of double burden that was from obesity in 1990 and 2022. The density plot alongside each map shows the smoothed distribution of estimates across countries.